

## 編集後記

本号は多発性潰瘍の特集である。周知の如く、多発性潰瘍の診断は、早期胃癌の診断の進歩とほぼ足なみをそろえて進歩してきたもので、その進歩も同様に大変大きかったと云える。

これについて、X線、胃カメラ、ファイバースコープ、病理のすぐれた綜説が得られ、本号の内容を豊かにした。諸論文を熟読玩味していただきたい。座談会も、シンポジウムで活躍された方々の生々しい話が得られ、すこぶる面白く、有益な内容となった。

展望は、綿貫教授の「消化器とME」で、今後のMEの発展が期待される。

技術解説は、河村博士の「私の胃カメラ検査」で、これまたすこぶる有益かつ興味深い。今後この欄には多くの方々の登場を希望したい。

本号も9月号となって、満2年も目前となった。内容についても、読者諸兄より色々貴重な御意見をいただき、有難く、参考にさせていただいているが、今後更にきたんのない御意見を多数およせいただきたい。このあたりで、更に一段と脱皮、躍進を期待したいものである。

< 崎 田 隆 夫 >